

## 可見元代石刻拓影目録稿・続（從至元21年至至元31年）

可見元代石刻拓影目録稿・続（从至元21年到至元31年）

森田 憲司\*

Kenji MORITA

「可見元代石刻拓影目録稿」の続編として、至元21年から31年分を掲載させていただく。これでクビライの治世が終わることになる。

この目録は、現時点で日本国内において、図録類やWEB上の画像などによって拓影を見ることのできる元朝石刻についての目録であり、その作成の趣旨については、前回の目録の冒頭に書いた「この目録について」を参照していただきたい。当然のことながら、新たに入手可能となり、目にするのできた石刻関係書の新刊も少なくないことは、森田が『13、14世紀東アジア史料通信』に連載している「近着石刻関係書所収元代石刻リスト」で紹介するとおりである。それらに掲載のものについても、この目録の収録対照としなければならないのだが、前回からの継続性を考え、今回については、対象文献を前回と同じものとする事とした。

前回と今回の目録とで、編集の方式には大きな違いはない。利用の便を考えて、「凡例」は再度掲載しておくが、若干表現を改めただけで、ほぼ同文である。ところで、「凡例」にかかわる問題として石刻の命名があり、これには検討すべき点が多いことは、前回も述べた。まず第一に新たに命名するのか、原石にある名称をそのまま採るのかについては、一長一短がある。後者はたしかに厳密ではあるが、その一方でしばしば長文であって、一見しただけはその石刻の内容を把握しにくく、実務的ではない。中国国家図書館の「碑帖菁華」においては、以前は、目録での表示は簡潔な名称を命名し(拓片題名)、データとして原石にある表記を注記していた(根拠題名)。しかも、検索では、「根拠題名」中の語からも当該の石刻が表示されるという方式をとっていて、前回のこの目録では、合理的な方法ではないかと紹介した。しかし、現在では「其他題名」という項目に代わってしまい、新収の石刻については、それも入力されていない。煩瑣なるがゆえであろうか。筆者の目録においても、より簡明な場合が多い「額」の表記も併記するなどの方法を、今後検討したいと考えている。もし、新たに命名するとすれば、あらためて原則を作る必要があるが、その前提となる石刻の種別とその呼称については、石刻学の最も基本的な項目であるにもかかわらず、清朝石刻学以来、論者ごとにすべて異なっていると言っているほどであり、それはそれで一朝一夕にできることではない。

ところで、今回収録したのが、120件弱。期間は11年間であるから、それ以前に比して拓影が

現存する石刻の増加したことがわかる。元朝はまだ70年以上続く。今後新しく出現するものを考えれば、まだ約1000件が残っていることになる。このペースでは、この目録の完成に10年以上かかることになってしまい、私の寿命のほうがおぼつかなさそうだ。基本データは入力済みとは言うものの、新収石刻の追補、改訂などの目録の整備や、公開の方策について検討をおこなわなければならない段階にきていると感じている。

## 目録凡例

### 名称

次の順序で採用する。首題、額、掲載文献の命名、森田の命名

同じく原石にあるタイトルとして、首題と額があるが、首題を額よりも優先するのは、額の少ない石刻の方が多い上に、額そのものやその拓本が失われたり、取り違えられたりすることがままあるためである。

墓碑、墓誌などのように個人にかかわる石刻の場合は、諱を（ ）に入れて付記する。

### 名称根拠

名称の欄に記した名称の根拠となったものを表示する。掲載文献の命名によった場合はその略称を用いた（拓影出典目録参照）。「森田」は、この目録のために森田の命名したものである。

### 年代

日付の決定と表示の原則は、次のとおりとした。

文中にある一番新しい日付を取ることを原則とする（追刻は除く）。墓誌の類については、被葬者の没年に配列するという考え方もあるが、石刻の成立と時間差がある場合もあり、その方式は取らない。

命令文などを刻したもので、立石の年代が不明の場合は、文書の日付とし、複数刻されている場合は、最新のものとする。各命令文の日付を注記欄に載せる。

干支表記による表記は年に換算し、月日についても、干支表記は数字に直す。ただし、憲宗以前の干支表記のものは干支を併記する。

月、日の別称のうち、確定できるもの（孟春、仲夏、望日、既望、七夕、重陽など）は、数字に換算して表記する。ただし、問題の残るものについては、注記欄に原表記を掲載する。

年によって動くもの（二十四節気など）は、それを表示する。

たんなる重刻（たとえば、元碑を明の萬曆年間に再刻したもの）については、その内容の時期に配列し、※をつけるとともに、注記に重刻の日付を入れる。ただし、過去の朝代の石刻を元朝時代になって重刻したものについては、重刻された時期に配列し、その旨を注記する。

配列は、日まで比定できるもの、月まで、年まで、の順とする。

### 年代根拠

上記の年代比定の根拠となったものを記す。原則として、「立石」、「建」、「記」、「耐」、「葬」など、石刻中で用いられている表現をそのまま用いた。「日付」は石刻末に日付のみあるもの、「文書」は刻された文書の日付に拠ったもの、「文中」は、文中にある表現から比定したもの、掲載文

献の年代比定に拠った場合は、その略称を記した。

#### 所在地

拓影掲載文献の表記に従い、省名（北京を含む）と2字表記の県名を掲載する。この場合、新旧の地名が混在することはやむをえないものとする。また、石刻の移動については配慮しないこととする。

#### 所載

複数の文献に所載の場合は、採録文献の対象範囲の広い順に並べる。

使用した文献と略号の一覧はこの文末に掲載した。

#### その他

文字は常用漢字を用いることとする。

### 拓影出典目録

※使用した略称のあいうえお順、数字の種類を注記した。今回収録すべき石刻のなかった文献については、\*を付している。

于右任 西北民族大学図書館于右任旧藏金石拓片精選 上海古籍出版社 2008\*

図版番号

華山 華山碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 1995 図版番号 \*

漢中 漢中碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 1996 図版頁 \*

翰墨 翰墨石影 河南省文史研究館藏搨片精選 広陵書社 2003 冊・頁

咸陽碑刻 咸陽碑刻 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 2003 図版番号

咸陽碑石 咸陽碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 1990 頁

戸県 戸県碑刻 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 2005 図版頁

山西 山西碑碣 山西人民出版社 1997 頁

輯繩 洛陽出土歴代墓誌輯繩 中国社会科学出版社 1991 頁 \*

新出 新中国出土墓誌 図版番号

「新出陝西2」のように巻名を表示した

西南 中国西南地区歴代石刻匯編 天津古籍出版社 1998 冊・頁

西北 中国西北地区歴代石刻匯編 天津古籍出版社 2000 冊・頁

陝西 陝西碑石精華 三秦出版社 2006 図版番号

泰山 泰山石刻大全 齊魯書社 1993 冊・頁

涿州貞石 涿州貞石録 北京燕山出版社 2005 頁 \*

澄城 澄城碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 2000 頁

重陽 重陽宮道教碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 1998 図版頁

東洋 東洋文庫所蔵中国石刻拓本目録 東洋文庫 2002

※図版が掲載されているわけではないが、国内で閲覧可能ということで収録する。

道家 道家金石略 文物出版社 1988 頁

白話 元代白話碑集録 科学出版社 1955 図版番号 \*

碑林 西安碑林全集 広東経済出版社 1999 冊・頁

北京精粹 北京文物精粹大系・石刻卷 北京出版社 2004 図版番号

北京文研 北京市文物研究所蔵墓誌拓片 北京燕山出版社 2003 頁

北図 北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編 中州古籍出版社 1989-91 冊・頁

ただし本目録の対象となるのは第48冊のみ

榆林 榆林碑石 三秦出版社(陝西金石文献匯集) 2003 頁 \*

洛陽名碑 洛陽名碑集釈 朝華出版社 2003 頁 \*

羅常培 八思巴字与元代漢語(増訂版) 中国社会科学出版社 2004 図版番号

楼観 楼観台道教碑石 三秦出版社(陝西金石文献匯集) 1998 図版頁

#### 拓影画像データベース

人文 京都大学人文科学研究所蔵石刻拓本資料

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/imgsrv/takuhon/>

京都大学人文科学研究所附属漢字情報センターが提供する画像データベース。きわめて鮮明な大型画像を見ることができる。このデータベースの公開が石刻研究を大きく進展させたことは、これまでも紹介してきた。付されている番号を表示したが、各番号の頭にある「GEN」は略した。

#### 菁華 碑帖菁華

中国国家図書館の拓本画像データベース。今回の目録では、煩を避けるため、「北図」にないものについてのみ、「菁華」の略号で、所載先としてあげた。収録対象とする期間について、年号検索し、「北図」にないものを収録した。総目的なものが見出せないのも、すべてをチェックできているわけではない。なお、今回の目録の対象範囲では、「北図」に載せられていて「菁華」にないものはない。また、石刻名の一部で検索可能なので、とくに番号などは付していない。ただし、画像の大小精粗にはばらつきがあり、内容判読が可能だけの解像度がないものもままある。昨年この目録作成時に比して、収録点数が増えており、新収録のものについては画質もよいので(カラー画像のものもある)、利用価値が高い。さらに、年代比定などを見ると、「北図」そのままではなく修正が加えられていることもある。ただし、碑名については問題があることは、前述した。アドレスは変更されることがあるようなので、省略した。

名称	名称 根拠	年代	年代 根拠	省	県	所載	注記
薬師七仏閣記	題額	至元21年正月望日	泰山	山東	泰安	泰山3・438	碑文全影が印刷不鮮明で判読できず
崇国寺皇帝聖旨碑	人文	至元21年2月27日	文書	北京	西城区	北図48・088、人文024A	
崇国北寺地産図	横題	至元21年2月				北図48・089、人文024B	前碑の碑陰
明公戒師(道明)和尚舍利塔記	首題	至元21年4月	日付	河北	唐県	北図48・090	
漢栢詩	首題	至元21年5月1日	題	山東	泰安	菁華	法帖
順公(正順)塔之記	首題	至元21年5月	日付	河北	定興	北図48・091	八面
易州定興県馬村華嚴院住持尼道妙石碣記	首題	至元21年5月	立石	河北	定興	北図48・092	八面
重修東岳蒿里山神祠記	首題	至元21年10月15日	立石	山東	泰安	人文025X、泰山3・448	蒿人文誤作高
楼観大宗聖宮重修説経台記	首題	至元21年11月冬至	述	陝西	周至	北図48・093(陽)、48・094(陰)、 西北07・146(陽)、07・147(陰)	至元甲申歳陽復日
永慶観碑	菁華	至元21年	日付	—	—	菁華	断片、月日部分なし
普救寺疏刻石	北図	至元22年正月	疏	山西	永濟	北図48・095	
朝元観記	菁華	至元22年3月17日	菁華	山東	泰安	菁華	全文篆書、写真が小さいので確認できず
「吉日癸巳」題名	森田	至元22年5月5日	菁華	河北	贊皇	菁華	「吉日癸巳」刻石への題名、「常山貞石志」巻1「壇山刻石」は、「至元」までしか読んでいない
大元故光禄大夫監修国史中書左丞相耶律公(鏞)墓誌銘	首題	至元22年7月15日	立石	北京	海淀	北京文研72、北京精粹244	
故光禄大夫中書左丞相監修国史耶律公郡主夫人墓誌	首題	至元22年7月15日	誌	北京	海淀	北京文研73、北京精粹246、 247	題額「故郡主夫人奇渥温氏墓誌銘」
大元開淄萊路重修講堂記	首題	至元22年10月1日	日付	山東	淄博	北図48・096	
泰安州長清県十方靈巖禪寺第二十九代新公禪師(郭全新)塔銘并序	首題	至元22年12月26日	立石	山東	長清 靈巖寺	北図48・097(陽)、48・098 (陰)、人文026A(陽)、027B (陰)、027X(陽)	
重修清涼禪院之碑	首題	至元23年2月3日	立石	山東	臨邑	北図48・099	日付部分に剥落あり、不確実

森田：可見元代石刻拓影目錄稿・續（從至元21年至至元31年）

皇子北安王(那木罕)降香記	首題	至元23年 2月26日	文中	河南	濟源	北図48・100	
登琴台詩并跋	北図	至元23年 2月28日	跋	山東	單県	北図48・101	2月晦前一日
□水県石門村白雲觀記	首題	至元23年 5月 4日	立石	北京	房山区	菁華	
玉清觀碑	首題	至元23年 7月	立石	河南	汲県	翰墨6・35	
常州路無錫県題名記	首題	至元23年 8月16日	記	江蘇	無錫	北図48・102	仲秋既望
廟主王德成辞世頌	首題	至元23年12月15日	書	河北	易県	北図48・103	至元 9年卒
大元易州源泉重修北嶽廟碑	首題	至元23年12月19日	立石	河北	易県	北図48・104	
固公監寺之塔	題額	至元24年 2月27日	立石	山東	長清 靈巖寺	北図48・105(題額、碑身)、人 文028A(碑身)、028B(題額)	人文作固山
重修天地水三官廟記	首題	至元24年清明前二日	立石	河南	孟県	翰墨6・36	
郭□造像銘	森田	至元24年 3月	菁華	浙江	杭州	菁華	
崑州重建城隍廟記	首題	至元24年 5月立夏	日付	広西	南寧	西南5・55	額はパクバ
湫水廟祈雨感応記	首題	至元24年 8月	立	河南	禹県	翰墨6・37	24年中秋
濟沆壺異記	首題	至元24年 9月 9日	立石	河南	濟源	翰墨6・38	
大元易州豹泉剎修玉泉觀碑銘并序	首題	至元24年 9月10日	立石	河北	易県	北図48・106	
女冠澄心散人(常守久)墓誌	首題	至元24年	建	陝西	現在 碑林	新出陝西2・342、碑林095・ 4767	月日部分欠落
創修保安觀記	澄城	至元24年	文書?	陝西	澄城	澄城15p	安西王令旨、状態悪く判読に限界
蒙漢文合刻令旨碑	重陽	至元24年 8月15日	建	陝西	戸県	重陽25p	至元丁亥中秋日
吳安民丁亥夏日登大任詩刻	森田	至元24年夏	菁華	河南	浚県	菁華	丁亥を至元 24年に当てる根拠不明
月忽乃游七星巖題記	北図	至元25年 3月 2日	日付	広東	肇慶	北図48・107	修禊前一日
浪淘沙詞并登通明閣詩	北図	至元25年清明重刻	北図	陝西	周至	北図48・028、西北07・131	元統 3年 9月「孫徳或道行碑」陰
玄靖遠觀大師劉公(劉志厚)墓誌銘	首題	至元25年 4月	建	北京	房山	新出北京67、菁華	

王遙還珠洞題詩	西南	至元25年7月15日	日付	広西	桂林	西南11・3	戊子七月望日、印刷不鮮明のため、名前の根拠、戊子をこの年とする根拠、ともに不明
重修宣聖廟記	額	至元25年8月6日	日付？	河南	涉県	翰墨6・39	1行目および最終行欠
玄門弘教白雲真人菴公(志遠)本行碑	首題	至元25年8月15日	日付	陝西	戸県	北図48・108、陝西218、碑林194・0791、重陽26p	
重修李白酒樓記	首題	至元25年9月9日	立石	山東	濟寧	北図48・109、人文029X	
儒学免税役聖旨碑	北図	至元25年11月	文書	浙江	紹興	北図48・110、羅常培30	上載バクバ文、下載漢文、羅常培はBonaparteの図版に拠る
摹刻商挺等詩詞碑	重陽	至元25年清明	上刻	陝西	戸県	重陽27p	至元戊子清明日
大理路興拳学校記	首題	至元25年？	西南	雲南	大理	西南15・15、大理1・42	月日の部分剥落
矩公宗主(慧矩)之塔	横題	至元26年3月	誌	河南	登封 少林寺	人文030X	
薊州盤山北少林禪寺住持威公(雲威)禪師塔記	首題	至元26年4月	立石	天津	薊県	北図48・111	
柳州路文宣廟碑	篆額	至元26年年4月	日付	広西	柳州	西南5・56	下载到重刻柳柳州像
仏雲普濟大師願公宗主靈塔	首題	至元26年5月21日	立石	—	—	北図48・112	八面
重陽王祖師仙跡碑	首題	至元26年7月中旬	立石	陝西	咸陽	咸陽碑石35	
信公(願信)首座塔記	首題	至元26年9月15日	立石	山東	濮県	北図48・113	
大元錦鈞州存真宮長清子趙公大師(志広)行実碑	首題	至元26年10月	立	河南	禹県	翰墨6・40	下元日
終南山清陽宮玄通教凝素大師孫公(志久)道行碑	首題	至元26年10月	立石	陝西	戸県	重陽28p	下元
大都宛平金城山白瀑寺峰禪寺第十一代勤公(本勤)禪師塔銘	首題	至元27年正月16日	卒	北京	門頭溝	新出北京68	
褚氏先塋碑	篆額	至元27年2月上旬	人文	山東	曲阜	人文031X	篆額のみ
重修白雲觀碑	首題	至元27年3月	立石	山東	淄博	北図48・114	

建塩司歴年増課記	首題	至元27年 8月15日	人文	山西	運城	人文032A	032ABは表と裏、人文は題額（新修塩池神廟之碑）をこちらに付す、文意から見て、この「増加記」が陰で、題額はBに付すべきではないか
解塩司新修塩池神廟碑(碑陰)	首題	至元27年 8月15日	立石	山西	運城	人文032B、菁華	上項参照
靈慶公神堂碑陰記	首題	至元27年 8月20日	日付	山西	運城	菁華	菁華には、“三列刻、上記中、下列題名”；“原石刻于唐貞元十三年七月二日尾刻元至元十五年十二月十五日《蘇之純等題名》及至元二十七年八月二十日亢澤等題記”、とあり、題名部分のみの拓影も載せられている
神山□□洞天長生万寿宮碑	首題 注参照	至元27年 9月	立石	山東	掖県	北図48・115	拓影不鮮明のため、名称は「道家」の録文による
滕州重修文廟記	首題	至元28年正月 5日	北京	山東	滕県	北図48・116	
耶律禿満答児墓誌	陝西	至元28年正月10日	文中	陝西	西安	陝西219	
重修隆陽宮記	篆額	至元28年 2月 7日	菁華	北京	房山区	菁華	画像が小さく、本文は判読不能
姜從善買地券	碑林	至元28年 2月28日	文中	陝西	碑林	碑林095・4773	首題「買地券碑」
大元封加北嶽之詔	題額	至元28年 2月	文書	河北	曲陽	北図48・117、羅常培06	上載バクバ文
琴台詩刻并跋	北図	至元28年 2月	文中	山東	單県	北図48・118	
少林住持泰公禪師(智泰)之碑	首題	至元28年 4月 1日	立石	河南	登封 少林寺	翰墨6・41	
大都鞍山慧聚禪寺月泉新公長老(同新)塔銘并序	首題	至元28年 4月28日	建	北京	門頭溝	北図48・119、新出北京69	八面
重修通仙觀碑銘并序	首題	至元28年下元日	日付	北京	門頭溝	精粹127	
篆書道德經碑	陝西	至元28年10月16日	立石	陝西	周至	陝西221、樓観21p	
大元故胡君(全)墓誌銘	首題	至元29年 2月 9日	葬	陝西	西安	北図48・120、西北07・148	
趙文輝太白樓題詩	人文	至元29年 2月15日	立石	山東	濟寧	人文033X	濟州太守趙文輝題とあり
道録張公法師(德琳)墓誌	首題	至元29年 3月	立石	陝西	涇陽	新出陝西1・172、咸陽碑刻073	
大元国大都路昌平県昭聖禪寺故先師雲峰檀公禪師(從檀)道行石幢之記	首題	至元23年 4月15日	日付	北京	昌平	新出北京66、菁華	22年12月卒ゆえ23年葬か

加封北海広澤靈祐王記	首題	至元29年6月15日	記	河南	濟源	北図48・121	
李季謙題詩	菁華	至元29年閏6月12日	文中	河北	曲陽	菁華	
遊澹山巖詩	菁華	至元29年閏6月	菁華	湖南	零陵	菁華	
脱脱夫人造金剛手菩薩聖像記	東洋	至元29年閏6月	文中	—	—	東洋2303	靈隱寺か
空相寺殘碑	北図	至元29年8月15日?	立	浙江	吳興	北図48・122	
新修玉真觀記	首題	至元29年8月15日	立石	河南	武陟	翰墨6・42	
陳氏(明政)墓碑銘並序	大理	至元29年8月28日	卒	雲南	大理	大理1・43、西南15・16	五華樓城壁出土
造多聞天王聖像記	森田	至元29年8月	建	浙江	杭州 靈隱寺	人文034X、東洋2304	人文は7月とする
陳孚題名	西南	至元29年	文中	広西	桂林	西南5・57	
濟州重建大成殿記	人文	至元30年2月	日付	山東	濟寧	人文036X	下部なし、剥落が激しい
至元癸巳廉訪行県題名記	首題	至元30年3月	文中	山東	曲阜	北図48・123	
九老題名詩	菁華	至元30年3月	文中	湖南	平江	菁華	「至元□巳三月」とある
故總領楮君墓銘并序	題額	至元30年7月10日	立石	山東	曲阜	人文037X	
故百戸楮君墓銘并序	題額	至元30年7月10日	立石	山東	曲阜	人文038X	
円明真人(高道寛)伝	首題	至元30年7月15日	日付	陝西	周至	北図48・124、西北07・149	
大元故宮密塩使司判官王公(深)墓誌銘	首題	至元30年8月8日	葬	山東	濟南	菁華	至元30年8月庚寅、蓋あり
敕賜不二禪院浄公(惠浄)戒師之銘	首題	至元30年8月15日	立石	山西	陽曲	山西264	
樓觀先師伝碑	題額	至元30年8月	日付	陝西	周至	北図48・125、西北07・150、碑林194・0795、樓觀29p	仲秋初吉
利津県勅修廟学碑	首題	至元30年8月	北図	山東	利津	北図48・127	
靈巖足庵肅公禪師(浄肅)道行碑	首題	至元30年9月9日	立石	山東	長清 靈巖寺	北図48・128(陽)、129(陰)、 人文039A(陽)、039B(陰)、 040X(陽)	
?真三十六代天師(張宗演)壙記	横額	至元30年9月18日	文中	江西	—	北図48・130	文中に「先三日」(葬は9月癸酉=21日とあり、北図は21日とする)

贈龍川大士詩刻	北図	至元30年9月	立石	河南	洛陽	北図48・131	碑陰は蛇兒年(至元30)、猴兒年(元貞元、以上は041B)、鼠兒年(皇慶元、041C)の聖旨
柏林寺元聖旨碑(碑陽、額)	人文	至元30年10月	文書	河北	趙州	人文041A	
大元故師君(弼)墓誌銘	首題	至元30年11月9日	葬	陝西	西安	新出陝西2・343	
文正范公祠記	首題	至元31年正月20日	記	江蘇	呉県	北図48・132	
范仲淹義莊義学蠲免科役省據	篆額	至元31年正月	北図	江蘇	呉県	北図48・133	
円寂義公和尚(普義)之碑	横額	至元31年3月清明	立石	陝西	戸県	戸県49p	
普覚禪師広公(正広)提点寿碑	首題	至元31年5月5日	立石	山東	長清 靈巖寺	北図48・134(陽)、135(陰)、 人文042X(陽)	
曹天麟等建塔記	菁華	至元31年6月24日	題	湖北	蕪春	菁華	
紹興府学崇奉儒学聖旨碑	森田	至元31年7月	文書	浙江	紹興	北図48・136、羅常培07	
大理孔廟崇奉儒学聖旨碑	森田	至元31年7月	文書	雲南	大理	西南15・17、大理1・44	
東平路孔子廟崇奉儒学聖旨碑	森田	至元31年7月	文書	山東	東平	羅常培27、人文045X	
贈彦通堂頭偈	菁華	至元31年8月15日	日付	山東	長清 靈巖寺	菁華	
濟陽県重修廟学記	首題	至元31年8月23日	立石	山東	濟陽	北図48・137	
松江府学崇奉儒学聖旨碑	森田	至元31年9月望日	立石	江蘇	松江	羅常培28	
聖旨禁約曉諭碑	人文	至元31年9月	人文	山東	曲阜 顔廟	人文043X、044X	
復庵桂庵偈	森田	至元31年10月23日	立石	山東	長清 靈巖寺	菁華	
范文正公義莊規矩	篆額	至元31年重刻	重刻	江蘇	呉県	北図48・138	
元氏県南開重建土地堂并石香爐記	首題	至元31年	日付	河北	元氏	北図48・139、140	
勉勵学校詔碑	人文	至元31年	人文	山東	曲阜	人文046X、東洋2305、羅常 培08	
							仲夏重午
							上載バクバ文、下截漢文
							羅常培は全碑、人文は上載のバクバ 文部分のみ 至正乙未の詩碑と同装
							上載バクバ文、中截漢文聖旨、下截記 文 漢文の他に、バクバ文、バルシア文の 書き込み
							原碑は政和7年
							下欠
							バクバ字、間に漢字

## 付記

この目録は、平成20年度の奈良大学研究助成、「石刻史料による元朝江南社会の研究」および、平成17年度～21年度科学研究費特定領域研究A「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」のうち研究課題「中国科举制度からみた寧波士人社会の形成と展開」の分担研究者としての成果の一部である。さらには、現在分担研究者である平成20年度～22年度科学研究費基盤研究B「中国社会へのモンゴル帝国による重層的支配の研究 元朝史料学の新展開をめざして」（研究代表者村岡倫龍谷大学教授）をはじめとする過去の科学研究費などの助成による文献の集積が基礎となっている。また、『西安碑林全集』の利用にあたっては、明治大学の櫻井智美准教授のお手を煩わせた。あわせて関係の各位に謝意を表したい。